

「愛がみの〜れ」第一号

「妻の実家のある小美玉で活動できて嬉しい」と語る寿一さんと、「快く送り出してくれる川又家の両親に感謝しています」と語る三美さん。



夫：ここで逢えたら…出演(ドラム)

川又寿一さん 三美さん

妻：みの〜れチンドンバンド

みの〜れと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ

No.19

師走に入り、肌寒く感じるこの頃…。そんな寒さを吹き飛ばす暖かな陽だまりのような夫婦に出会った。みの〜れで赤い糸をたぐり寄せるように結ばれたカップル。一四歳の年の差を感じさせない二人は同じ趣味を持ち、同じ夢に向かって輝いている。「愛がみの〜れ」第一号の川又さんご夫妻に取材した。

両家の支援 感謝の日々

川又さんご夫妻は常陸太田市(旧金砂郷町)から一時間半かけてみの〜れに通っている。両親も快く送り出してくれ、三美さんの実家(北浦区)の両親も三歳と五歳になる子ども達の面倒を見てくれる。「両家が応援してくれているのですごく助かります」と感謝している。

寿一さんはMyuの太田剛さんとの出会いから音楽やみの〜れとつながった。現在、Myu音楽活動の一環として行う「みの〜れチンドンバンド」のパーカッションと、来年二月に公演する「ここで逢えたら…2」でドラムを担当している。三美さんは寿一さんを「チンドンとここで逢えたら…の時のキャラクターが『ガラッ』と変わることがすごい」と話す。誠実で努力家の

人柄に、メンバーからの信頼も厚い。そして愛妻家である。家庭を支える三美さんへの感謝と思いやりが、インタビューを通してひしひしと伝わってきた。

「みの〜れは、遠い金砂郷から通って来る価値のある場所です」と語る三美さん。みの〜れチンドンバンドでアコーディオンと歌を担当。「昭和の曲を演奏すると懐かしそうに聴き入るおじいちゃんおばあちゃん姿を見るのが好き」と語る。

みの〜れチンドンバンドの魅力は、生音・移動しながらの演奏・派手目の衣裳。三美さんはその衣裳製作も担当する。基本は持っている生地を使うこと。古布を利用してのぼりを作ったり、割烹着を分解してメイドのエプロンを作ったりと、あるものを上手く利用している。和柄などは自分の七五三の時の着物を利用

したりする。三美さんが言うには「パズルのように組み立てればどうにかなる」そうだ。

二人は、「自分たちがみの〜れに協力できるのが嬉しいです。子ども達もみの〜れはパパとママが演奏するところと思っっています」と話す。

「ここで逢えたら…」のために自宅でドラムの練習をする寿一さん。その部屋にはキーボードも置いてあり、子どもたちも楽器に触って遊んでいるという。

二人の夢は「家族でコンサートを開くこと」。みの〜れの舞台で実現する日が楽しみだ。

(藤田佐知子)